

18日に三方良しの公共事業カンファレンス

三方良しの公共事業推進研究会、地域建設業新未来研究会は18日、札幌市の札幌エルプラザ（札幌市北区北8西3）で「三方良しの公共事業推進カンファレンス2019札幌」を開く。

「日本人が培ってきた三方良しの社会、全体最適の新たな姿を探る」をテーマに、さらなる公共事業改革の方向性を探る。

改革の方向性探る

札幌市で推進研ら

カンファレンスではトヨタ自動車元取締役技監の林南八氏が「生産現場以外にも活用できるトヨタ生産方式の本質」と題して基調講演する。

事例紹介では前札幌市立屯田小学校校長の新保元康氏が「小学校で社会資本はどう学習されているのか」をテーマに発表するほか、伊藤組土建の斎藤直樹土木部工事課所長、一二三北路の多田真土木工事部次長による働き方改革や生産性向上に向けた取り組み事例などを紹介する。また、ゴールドラットジャパンの岸良裕司氏のコーディネートでパネルディスカッションも行う。

北海道開発局、札幌市、北海道建設業協会が後援する。

入場は無料。事前申し込みが必要で、電子メール(jimukyoku@sanpouyoshi.jp)またはファクス(011-232-8237)で受け付ける。

